

第 1 回策定委員会の振り返り

NO	項目	主要意見
1	人口の動向について	<p>人口ピラミッドを見ると、30～34歳から下の階層が減少している。出生数よりも転出者が多くなっているのではないかと。将来推計はされているのか。</p> <p>2025年に団塊世代が後期高齢者になる。現在の高齢化率は37.1%であるが、2025年はどのような数値になるのか。</p>
2	転出者の意向把握	<p>アンケート調査において、どんな人が市外へ引っ越したいと思っているのか、分かるとよい。住み続けたい人についても、どんな人なのか属性をみたい。</p>
3	子育て世代のニーズ	<p>若い世代、働いている世代のニーズ調査が行われているか。調査がされていないならば、ヒアリングなどを行うことが考えられる。</p>
4	高齢者が住み続けられるために	<p>2人に1人が高齢者になるなかで、住みよいまち、住み続けたいまちをどのように実現するのか。地域医療・介護・福祉の資源がある一方で、買物弱者の課題が出されている。</p> <p>後期高齢者、一人暮らし高齢者のデータに着目する必要がある。これらの層は買物弱者であり、住み続けることが難しくなる。</p>
5	新たな魅力づくり	<p>ニュータウンに引っ越してきた際の魅力として、近大病院やさやま遊園があった。次の段階では、それらはなくなることになる。新しい魅力をつくっていく段階になる。</p>
6	活性化の事例	<p>高齢者が住み続けたいまちとして箕面市がある。どのような取組をしているか調べてみてはどうか。</p> <p>河内長野市の南花台はスマート・エイジングシティのモデル事業に取り組んでいる。コノミヤと一緒に取り組んでいる。</p>